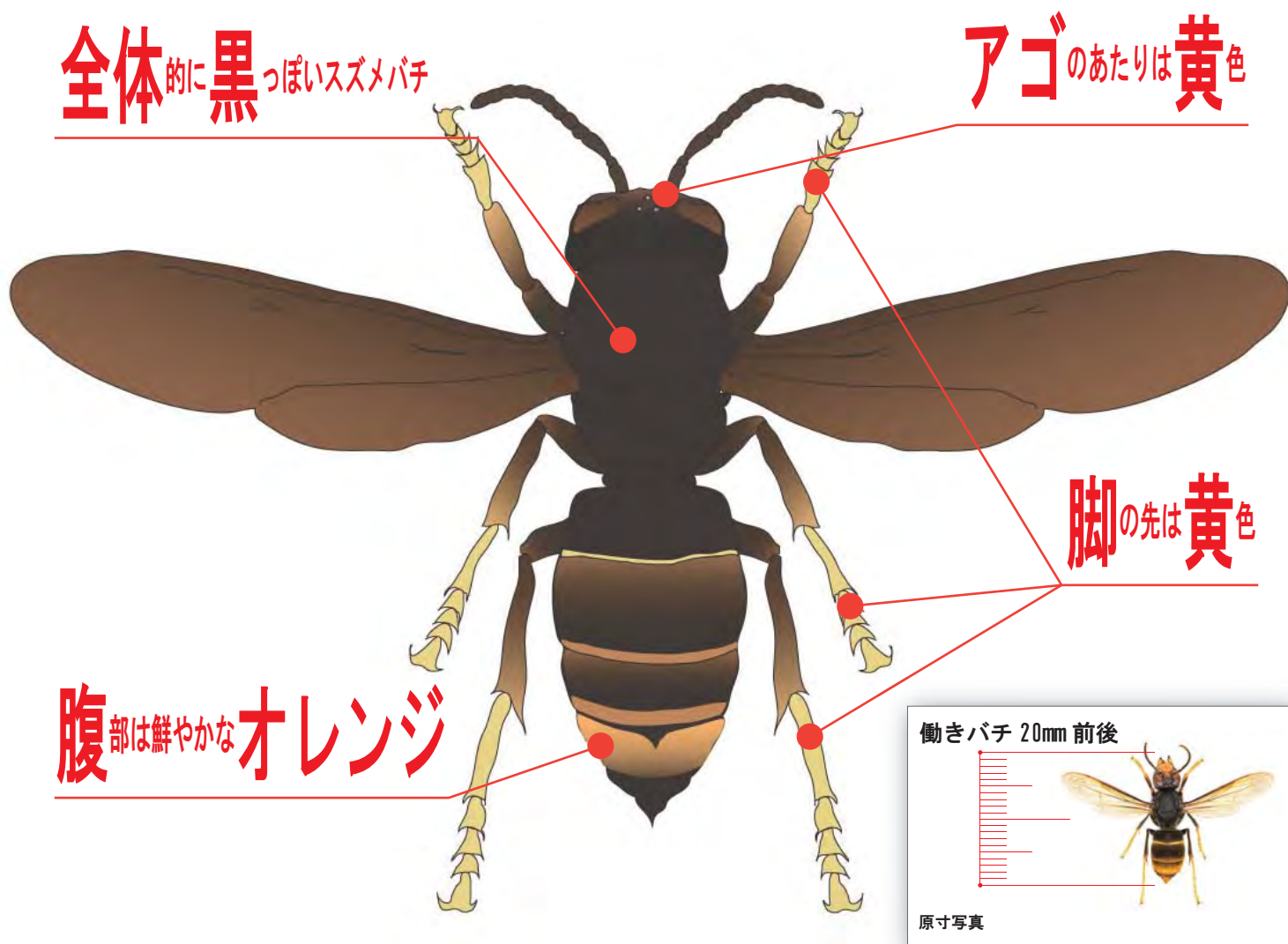


ツマアカスズメバチ



- 平成 24 年に長崎県対馬市で初めて発見された外来のスズメバチです。
- 対馬市で急激に分布を拡大しており、九州や本州に侵入する可能性があります。
- 生態系等に影響を及ぼすおそれがあり、警戒が必要です。

■基本情報

ツマアカスズメバチ

学名：*Vespa velutina*

原産地：中国、台湾、東南アジア
南アジア

形態：体は全体的に黒っぽく腹部の先端がオレンジ色。
女王30mm、オス24mm
働きバチ20mm前後



- 主に昆虫類（ミツバチを含む）を捕食します。
- 樹木の高い位置に営巣することが多いのが特徴です。
- 在来のスズメバチよりも、大きな巣をつくります。
- 長径 1mに達することもあります。

■懸念される影響

- 生態系への影響
在来のスズメバチの減少や捕食される昆虫の減少による生態系のかく乱
- 農林業（養蜂）への影響
飼育ミツバチへの攻撃、養蜂や受粉への被害
- 人への影響
在来のスズメバチと同様、人への刺傷被害



環境省 自然環境局 野生生物課
外来生物対策室
〒100-8975
東京都千代田区霞が関 1-2-2
TEL:03-5521-8344 FAX:03-3504-2175

九州地方環境事務所 野生生物課
〒860-0047
熊本県熊本市西区春日 2丁目 10番 1号
熊本地方合同庁舎 B棟 4階
TEL: 096-322-2413 FAX096-322-2447